

# 令和 7 年度 学校総合評価

## 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度、『大門高校グランドデザイン』に掲げる「育てたい資質・能力（自ら学ぶ力、深く考える力、創造する力、主体的に行動する力、人間関係を形成する力、地域に貢献する力）」の育成を軸に、情報を核とした国際・地域・環境に関する教育活動の充実に注力した。

学習活動：「学習習慣の定着」を重点課題とし、自己設定目標の達成と理解の深化を目指した結果、いずれの指標も目標値を上回る成果を得た。

学校生活：規律ある生活と行事の活性化を推進した。個人ロッカー施錠の徹底では意識と実態の乖離が見られたものの、数値目標はクリアした。また、創立 40 周年関連行事への積極的な参加により、行事への参画意識は昨年度を上回る伸びを見せた。

進路支援：1 年次の志望分野決定率は 88.3% と高い結果を収めたが、2 年次の志望校決定率では 57.6% に留まり、進路決定に向けた葛藤が見て取れる。一方、3 年生に対しては全校体制での組織的な受験指導を展開し、国公立大学前期試験発表時点で 88.9% の進路決定率を確保した。

特別活動：部活動を通じた自己成長感は向上したが、目標値には届かなかった。地域・校外活動への参加率は低迷しており、ボランティア活動の参加層が固定化している点が課題である。

情報教育・探究活動：DX ハイスクールとしての環境整備を背景に、生徒の情報活用能力が向上した。教員の 8 割がタブレットを活用した授業を実践し、外部連携による探究活動の質的向上も図られた。

以上により、今年度の重点目標は「ほぼ達成」と評価する。グローバル・リンク・シンガポール 2026 への初参加や、DX 環境を活かした探究サイクルの高度化など、本校の教育活動は着実に進化を遂げている。

## 次年度へ向けての課題と方策

次年度は、今年度未達成となった「地域・校外活動への参加率向上」を筆頭に、各領域の目標と方策を再検討し、教育活動の更なる質的改善を図る。また、DX ハイスクール継続採択として、これまでの成果を定着させつつ、新たな展開を模索することが課題である。

そのためには、各アクションプランの内容を精査・再構築し、学習指導の工夫や、キャリア教育・部活動・外部活動・探究活動の環境整備を強力に推進する。また、全校体制で「情報を核とした教育活動」を展開するとともに、生徒、保護者、地域、学校関係者の声を真摯に反映させた、安心・安全で信頼される学校運営を目指す。